

**8月15日 第64回終戦記念日**

## **64回目の終戦記念日を迎えて**

### **国を守るって何？国ってなに？**

「日本は侵略国家ではなく、過去のアジアへの侵略行為もそうでは無かった」と論文で発表し、更迭された田母神前航空幕僚長は、この頃何度もTVなどで見かけ、その発言に共感する若者も多いという。

彼の「日本も核武装すべき」などの主張は、過激なこともあってバライティー番組などに出演し、その発言はおもしろおかしく扱われているが、本質は危険この上ない。

### **「備えあれば患いなし」・・・でも現実には「備えがあるため憂いあり」**

彼はある講演で、「『ぶん殴るぞ』という姿を現さないとだめ、だから軍隊を持たなければ日本の国は守れない」と発言している。このような考えを持つ人は最近、特に増えているが、はたしてそうだろうか。

64年前に戦争が終わった。200万人もの犠牲者をだして終わったのである。戦争は膨大な犠牲を払わないと終わらないのである。一度殴り合いをはじめたら終わりはない。支配するものは、国を守る殴り合いとして、高見の見物である。殴られる物はいつも労働者や老人、子供など弱い立場の人である。

こんな時代だからこそ、守るべき国とは何なのか、冷静に考えよう。国とは何なのか。国は家族でも恋人でもない。実体のない観念的なものでしかない。

今こそ何を守るのか、よく考えよう。少なくとも今、私たちは憲法9条により戦争の危機から守られている。

その憲法が危ない、来年にも憲法改悪を前提にした国民投票が実施される。憲法改悪が目の前に迫っている。あなたは国のために命を捨てられますか？ これだけは言える、命を捨てろという国は守る価値はない！